

あいと[®]が食べる勇気に繋がった進行食道癌の一例

済生会松阪総合病院 NST

晝河美絵、伊藤理愛、中井佐奈、大洲有佳、松本由紀、福家洋之、清水敦哉

【症例】70代、女性

【主訴】体重減少、食べ物のつかえ感

【現病歴】20XX年4月頃から徐々に体重が減少、同年9月5kgの体重減少および食べ物のつかえ感が出現し当院受診、上部消化管内視鏡にて食道に全周性の不整な潰瘍および通過障害を認めたため入院となった。

【経過】入院時身長140.8cm、体重24.8kg、BMI12.6と著明な痩せを認めた。血液検査上はAlb4.2、Tcho268、TLC1110と保たれていたがGLIM criteriaでは重度の低栄養であった。精査にて食道癌(扁平上皮癌 cStage IVa)と診断、CVポートおよび経鼻内視鏡下に胃瘻を造設し化学放射線療法を施行した。当初は腫瘍による閉塞と、治療の副作用で経口摂取は困難であったが、胃瘻からの経腸栄養を併用しつつ治療を継続することができた。

放射線治療および化学療法2クール施行にて腫瘍の縮小が認められたが、経口摂取に対する不安は解消されなかった。そこで退院前に摂食回復支援食あいと[®]の購入を提案、自宅では経腸栄養と、あいと[®]を併用していた。あいと[®]の摂取を契機に経口摂取に対する不安感が解消され、その後は柔らかいパンや刻み食が摂取可能となった。

【考察】重度の低栄養を伴う進行食道癌に対し、胃瘻からの経腸栄養を行うことで、栄養状態の更なる悪化を来すことなく化学放射線療法を施行することが可能であった。またあいと[®]の摂取により、再び食べられる喜びを感じ、経口摂取量の増加やQOLの向上に繋がったと考えられた。